

松江だんだん

会報第5号



松江城創建時の祈祷札が発見されました
本報「松江城を国宝に」をご覧ください

近畿松江会

ふるさと松江

作詞 近畿松江会

一

神話は語る

佐陀加賀

ご縁嬉し

八重垣

熊野神魂も

鎮座して

だんだん
松江

ふるさと

二

千鳥お城

石垣

嫁が島に

茜さす

松江大橋

カラコロと

だんだん
松江

ふるさと

三

蜆美味し

宍道湖

波に遊ぶ

夕鴨

勾玉湯の町

浴衣がけ

だんだん
松江

ふるさと

四

牡丹薫る

八束路

紫烟けむる

中海

恵比寿シヨコホイ

五本松

だんだん
松江

ふるさと

五

意宇川ほとり

阿陀加夜

城の稲荷

神幸祭

掛声華やか

ホーランエンヤ

だんだん
松江

ふるさと

曲は 故郷（ふるさと）作曲 岡野 貞一

うさぎ追いし かの山・・・

※ 近畿松江会では歌詞を募集しています

ご応募は事務局へお問合せください

目 次

表紙題字・・・・・・・・・・・・・・・・・・	近畿松江会 顧問 和田亮介氏
会歌「ふるさと松江」・・・・・・・・・・	作詞 近畿松江会
目次「会報第5号」・・・・・・・・・・	1
会報発行あたり挨拶	
近畿松江会 会長 ^{かり た} 荻田 運三郎・・・・・・・・・・	2
松江市長 松浦 正敬・・・・・・・・・・	3
平成23年度事業報告・・・・・・・・・・	4
平成23年度収支決算書・・・・・・・・・・	5
平成24年度事業計画（案）・・・・・・・・	6
平成24年度収支予算書（案）・・・・・・・・	7
近畿松江会 平成24年度役員名簿・・・・・・・・	8
近畿松江会 「この一年」・・・・・・・・・・	9
故郷応援団“山陰古事記の旅” 感想文・・・・・・・・	11
寄稿集“松江だんだん”・・・・・・・・・・	18
報 告 “松江城を国宝に！”運動で、創建時の棟札（祈祷札）を発見・・・・・・・・	26
児童養護施設 双樹学院（松江市）を訪ねて・・・・・・・・	27
会員名簿（中・小学校区別）・・・・・・・・	28
広 告・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
お知らせ・編集後記・・・・・・・・・・	37

ご 挨 拶

近畿松江会 会長 荻 田 運三郎



近畿松江会の皆様におかれましては、ますます
すご健勝のこととお喜び申し上げます。

茲に近畿松江会会報第 5 号の発行にあたり一
言ご挨拶を申し上げます。

昨年 3 月 11 日の東日本大震災と、福島原発
事故の発生に際しては、早速皆様に義援金およ
び支援物資供給を呼びかけ、同年 4 月上旬には
寄贈・発送いたしました。爾来 1 年半を過ぎても決
められない政治の一方で、「人の絆」という思いに
よる取り組みが復旧復興への活力になっているの
は喜ばしい限りです。

さて、本年故郷での古事記編纂 1300 年を記念
するイベントの本格化をまえに近畿島根県人会主
催で 5 月 24 日～25 日の故郷応援団「山陰古事
記の旅」(1 泊 2 日)バスツアーに参加された会員
有志の感想文を会報に特集しました。そして例年
5 月または 6 月に開催してきました当会の総会・懇
親会を「近畿島根県人会創立 50 周年記念大会」

の本年 11 月 18 日(日)に行ない、県都松江市の
会として応援いたすことにいたしました。

当日は“神々の国しまねフェア”物産と観光展と
銘うって石見神楽、安来節、隠岐民謡などの郷土
芸能を楽しみ、また島根のお酒や物産の販売、
出雲そば等島根の魅力をたっぷり味わいながら
会員の皆様が、地元との交流、近畿地区での交
流を通じて一層の絆を深めていただければ望外
の喜びであります。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご
多幸をお祈りいたしますとともに、さらに近畿松江
会活動を盛り上げていただきたく、交流事業への
参加と新規会員のご紹介等のご支援、ご協力をよ
ろしくお願い申し上げます。

近畿松江会は7周年を迎えようとしております
が、会長就任直後に提案させていただきました役
員会を「三水会」と称し、ほぼ毎月開催しておりま
す。現在、和田顧問をはじめ18名の役員が毎回
ほとんど全員出席で会の活動に頑張っておりま
す。会員の皆様で役員をとお考えの方
はどうぞ遠慮なくお申し出ください。



ご 挨拶

松江市長 松 浦 正 敬



近畿松江会の皆様には、平素から近畿とふるさと松江の架け橋としてご尽力いただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

昨年は、荏田会長様をはじめとして近畿松江会のご厚意により、松江開府400年祭のフィナーレの年に併せ、ふるさと松江の地で第6回総会を開催していただきました。当日は、松江会の皆様となごやかな雰囲気の中、充実したひとときを過ごすことができました。また、おかげをもちまして昨年12月には、5年間にわたって行ってまいりました開府400年祭も、成功裏のうちに終了することができました。重ねてお礼申し上げます。

今年は、近畿島根県人会の創立50周年の記念すべき年にあたります。近畿松江会の皆様には、記念事業「神々の国しまねフェア 物産と観光展」を、先頭にたって盛り上げていらっしゃることに深く敬意を表します。皆様のお力で、

フェアが大成功となりますことを心からご祈念申し上げます。

さて、松江開府400年祭に続き、今年は古事記が編纂され1300年となるのを記念して「神話博しまね」が出雲大社周辺を主会場に開催されております。近畿松江会の皆様にも、この機会に多数ご来場いただき、博覧会を盛り上げていただければ幸いです。

神話博は、神話に代表される、島根に古くから受け継がれた豊かな自然や伝統文化を、未来へつなげていくことを目的としております。幸い松江市には、ユネスコ無形文化遺産に登録された「佐陀神能」や10月28日に伝承館の開館を予定しております「ホーランエンヤ」など、誇るべき貴重な伝統文化が数多く受け継がれております。神話博を契機に、より一層継承に努めてまいります。

また、皆様にご協力いただいております、松江城の国宝化へ向けた取り組みについては、「祈祷札」の発見という大きな出来事がございました。祈祷札は、松江城の創建年代にかかる貴重な資料で、国宝化に向けた大きな一歩となるものと考えております。今後も、調査研究を積み上げて、松江城の国宝化実現を目指したいと思います。

結びに、近畿松江会のますますのご発展と、会員の皆様のご活躍を祈念いたしましてご挨拶といたします。

平成 23 年 度 事 業 報 告

月 日	曜日	時 間	行 事 等 の 内 容	場 所	備 考
1月15日	金	18:00	役員会 全国都道府県対抗女子駅伝激励会 「がんばれ島根」携帯ストラップ贈呈	加茂川館	京都島根県人 会主催
1月17日	日	9:00	役員会:同上応援	西京極陸上競技場	
1月3日～22日		11:00	前進座初春公演「きられお富」観劇	京都四条南座	
2月16日	水	17:30	会計監査	大 柵	
		18:30	役員会 総会までのスケジュール・総会案内状検討		
3月 8日	金	13:00	会長・幹事長・事務局長:松江市訪問	関係機関	
3月16日	水	18:30	役員会 ふるさと訪問バスツアーについて 東北関東大震災義援金、物資供給について	大 柵	
3月18日	金		東北関東大震災義援金及び支援物資供給募集案内		
4月 2日	土	14:00	役員会ほか:東北関東大震災支援物資仕分け	竹谷設計事務所	7名
4月 6日	水	18:30	会長・幹事長・事務局長:義援金寄贈	山陰中央新報大阪支社	
4月8日～			支援物資出荷開始		
4月12日	火		ふるさと訪問バスツアー案内状発送		
4月13日	水		第37回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会出場	箕面ゴルフ倶楽部	参加6名
4月20日	水	18:30	役員会 バスツアーについて 総会、懇親会式次第等について	大 柵	
5月11日	水	18:30	役員会 バスツアー申込状況ほかについて	大 柵	
5月25日	水	18:30	役員会 懇親会来賓の確認、式次第最終決定 役割分担について	大 柵	
6月4日～5日	土・日		ふるさと訪問バスツアー	大 柵	
7月20日	水		役員会 「ふるさと訪問バスツアー」総括ほかについて		
9月21日	金	14:00	八束中学校大阪商人体験地産品販売応援	天神橋商店街	
		18:00	役員会 会報発行についてほかについて	大 柵	
9月30日	金		会報第4号発行	大 柵	
10月19日	水	18:00	役員会 H24年度の取り組みほかについて		
11月13日	日		近畿島根県人会総会・懇親会		
11月17日	木		第38回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会出場	箕面ゴルフ倶楽部	参加12名
11月23日	水	昼の部	北島三郎 公演観劇(白木みのるさん出演)	大阪新歌舞伎座	
12月 1日	木	13:00	会長・幹事長・事務局長:松江市訪問	関係機関	
12月初旬			平成24年度年会費納付のお願い発送 平成24年度上期行事予定報告		

平成23年度 近畿松江会 収支決算書

(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

収 入 の 部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
前期繰越金	0	0	0	
年 会 費	504,000	438,000	▲ 66,000	会員145名(23年度分) 会員 1名(22年度分)
総 会 費	2,170,000	1,717,100	▲ 452,900	ふるさと訪問バスツアー 総会・懇親会
寄 付 金	100,000	100,000	0	100,000円(和田亮介)
広 告 料	240,000	191,000	▲ 49,000	全26件
借 入 金	0	118,930	118,930	竹谷 奨
雑 収 入	150	60	▲ 90	預金受取利子
事 業 費	300,000	219,000	▲ 81,000	北島三郎公演チケット20枚
合 計	3,314,150	2,784,090	▲ 530,060	

支 出 の 部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
総 会 費	2,300,000	1,984,817	▲ 315,183	ふるさと訪問バスツアー 総会・懇親会
広 告 費	42,000	42,000	0	年賀・暑中見舞い紙上掲載(山陰中央新報社)
通 信 費	80,000	117,348	37,348	切手・ハガキ・レターパック・メール便
印 刷 費	250,000	171,191	▲ 78,809	会報第4号(250部)、会議資料・案内チラシ等
事 務 費	50,000	56,222	6,222	HP接続料、総会写真プリント代、コピー、紙代文具等
旅 費	50,000	67,490	17,490	松江市訪問2回(菊田会長、有田幹事長、竹谷事務局長)
雑 費	50,000	32,444	▲ 17,556	松江市訪問土産代(2回)、市町村対抗ゴルフ飲物代(2回)他
予 備 費	142,498	27,146	▲ 115,352	女子駅伝祝儀、同縁結びストラップ贈呈 達山監事饗別、白木みのる楽屋見舞、八束中学激励
事 業 費	270,000	220,000	▲ 50,000	北島三郎チケット(20枚)
払込負担金	40,000	25,780	▲ 14,220	会費、広告費、事業費手数料払込
借入金補填	39,652	39,652	0	前期借入金
次期繰越金	0	0	0	
合 計	3,314,150	2,784,090	▲ 530,060	

監査の結果、正確に処理、記載されていることを認めます。

平 成 24 年 2 月 15 日

監 事 木 幡 泰 三 (印)

監 事 糸 川 孝 一 (印)

平成 24 年 度 事 業 計 画 (案)

月 日	曜日	時 間	行 事 等 の 内 容	場 所	備 考
1月13日	金	18:00	役員会 全国都道府県対抗女子駅伝激励会 激励金・「がんばれ島根」携帯ストラップ贈呈	加茂川館	京都島根県人 会主催
1月15日	日	9:00	役員会:同上応援	西京極陸上競技場	
1月3日～22日		11:00	前進座初春公演「芝浜の革財布」「明治おばけ暦」観劇	京都四条南座	
2月15日	水	17:00	会計監査	大 柝	
		18:30	役員会 H24年度事業計画確認・新役員武田貞雄承認 児童養護施設支援について		
3月10日	木		児童養護施設「双樹学院」へ文房具等発送		
3月21日	水	18:30	役員会 古事記の旅について	大 柝	
4月11日	水		第39回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会参加	箕面ゴルフ倶楽部	参加7名
4月18日	水	18:30	役員会 総会の持ち方について 近畿島根県人会創立50周年記念大会応援を決定 (金券販売を支援)	大 柝	
5月24日～25日	木・金		故郷応援団 山陰古事記の旅		
6月初旬			近畿島根県人会創立50周年記念大会 金券申込書発送		
6月20日	水	18:30	役員会 総会会場・金券申し込み状況ほかについて	大 柝	
7月12日	木		会長・幹事長・事務局長:松江市訪問	関係機関・双樹学院	
8月29日	木	18:00	役員会 松江市訪問報告・会報ゲラ拝ほか		
9月19日	水	14:00	八束中学校大阪商人体験地産品販売応援		
		18:00	役員会 総会の持ち方ほかについて	天神橋商店街	
9月28日	金		第1回近畿松江会ゴルフ大会	太平洋クラブ六甲コース	
9月末			会報第5号発行		
10月18日	水	18:00	役員会 総会役割分担ほかについて		
11月18日	日		平成24年度総会	松下IMPビル	
			近畿島根県人会創立50周年記念大会	ツイン21	
12月			平成25年度年会費納付のお願い発送 平成25年度上期行事予定報告		

平成24年度 近畿松江会 収支予算(案)

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

収 入 の 部

単位：円

科 目	23年度決算額	24年度予算額	比較増減	備 考
前期繰越金	0	0	0	
年 会 費	438,000	507,000	69,000	169名×3,000円＝504,000円
総 会 費	1,717,100	0	▲ 1,717,100	個人負担なし
寄 付 金	100,000	100,000	0	
広 告 費	191,000	191,000	0	
借 入 金	118,930	0	▲ 118,930	
雑 収 入	60	60	0	受取利子
事 業 費	219,000	300,000	81,000	近畿島根県人会創立50周年記念大会金券販売ほか
合 計	2,784,090	1,098,060	▲ 1,686,030	

支 出 の 部

単位：円

科 目	23年度決算額	24年度予算額	比較増減	備 考
総 会 費	1,984,817	50,000	▲ 1,934,817	会場借受費等
広 告 費	42,000	42,000	0	年賀・暑中見舞い広告(山陰中央新報社)
通 信 費	117,348	150,000	32,652	案内状発送費等
印 刷 費	171,191	160,000	▲ 11,191	機関紙発行、案内状、会議資料
事 務 費	56,222	50,000	▲ 6,222	文具、コピー紙等
旅 費	67,490	70,000	2,510	松江市訪問
雑 費	32,444	40,000	7,556	松江市訪問手土産等
払込料金負担	25,780	30,000	4,220	
借入金補填	39,652	118,930	79,278	
予 備 費	27,146	37,130	9,984	
事 業 費	220,000	350,000	130,000	近畿島根県人会創立50周年記念大会金券購入・負担金ほか
次期繰越金	0	0	0	
合 計	2,784,090	1,098,060	▲ 1,686,030	

近畿松江会役員改正

(平成24年1月1日～25年12月31日)

顧問	和田 亮 介	(宍 道 町)
相談役	伊 藤 雅 義	(宍 道 町)
会 長	荻 田 運三郎	(雑 賀 町)
副 会 長	小 川 龍 朗	(島 根 町)
副 会 長	木 村 八重子	(東 本 町)
幹 事 長	有 田 嵩	(宍 道 町)
副 幹 事 長	澄 川 光 成	(雑 賀 町)
事 務 局 長	竹 谷 獎	(八 束 町)
常任幹事・地域	伊 藤 征 治	(北 堀 町)
常任幹事・ゴルフ担当	井 上 隆 吉	(上東川津町)
常任幹事・地域	井 上 芳 子	(石 橋 町)
常任幹事・地域	押 田 良 樹	(大 庭 町)
常任幹事・地域	木 村 恵 吉	(雑 賀 町)
常任幹事・地域	武 田 貞 雄	(雑 賀 町)
常任幹事・地域	中 村 博 行	(新 町)
常任幹事・広報	松 本 耕 司	(上 本 庄 町)
監 事	木 幡 泰 三	(宍 道 町)
監 事	糸 川 孝 一	(北 堀 町)

近畿松江会この一年

第6回総会（平成23年6月4日）以後、
平成24年7月12日まで

☀平成23年

☆7月20日（水）7月期 三水会

- ・ふるさと訪問バスツアー総括

今回のツアーは総会を松江市ということで企画しましたが、参加者が予定人数を満たさず予算上、苦戦しました。

次回は参加者増をめざし、企画をより充実させたいと考えます。・・・反省

☆9月21日（水）9月期 三水会

- ・会報第3号ゲラ拝、修正加筆。発行部数を250部、発送を9月末に決定しました。
- ・松江市立八束中学校2年生の天神橋3丁目の「天三おかげ館」にて大阪商人の心得を受講し、2丁目及び3丁目、2箇所で大根島（大根島）特産品（牡丹苗、浜ぼうふうの漬物）の販売と観光PRを応援しました。

9月25日（日）の山陰中央新報にその奮闘ぶりが紹介されました。



☆9月30日（木）機関紙松江だんだん

- ・会報第4号 発行

当初は300部印刷しましたが、引き合いが多く、100部追加印刷しました。

とても喜びました。

☆10月19日（水）10月期 三水会

- ・平成24年度の取り組みほかについて協議しました。
- ・恒例となった「前進座初春公演」観劇募集について協議しました。

☆11月17日（木）

- ・第38回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会に出場しました。近畿松江会は今回こそは上位入賞をと3組12名参加しました。個人では前回優勝の山口茂さんが準優勝、団体戦は14位が最高でした。

☆11月23日（水）

- ・白木みのるさん出演の「北島三郎公演観 大阪新歌舞伎座」を観劇しました。白木さんは八束中学校の第1期生、(年齢?) まだまだお元気ですよ。

☆12月1日（木）

- ・荻田会長、有田幹事長、竹谷事務局長 遅くなりましたが5月のバスツアーのお礼を兼ねて松江市関係各課、商工会議所、観光協会を訪問しました。

☆12月初旬

- ・平成24年度の会費納入のお願いと行事予定を発送しました。会員数は毎年増えていますが、皆さんお声掛けをよろしくお願いします。

☀平成24年

☆1月13日（金） 役員有志

- ・全国都道府県対抗女子駅伝激励会に参加し、激励金と「がんばれ島根」携帯ストラップを監督、コーチ、選手へ贈呈しました。

☆1月15日（日） 随意

- ・全国都道府県対抗女子駅伝を京都西京極陸上競技場、沿道にて応援しました。競技場では京都島根間人会の「出雲そば」の屋台がとても人気ですよ。皆さんもお出かけください。（ちょっと寒いですが・・・）

☆1月3日（火）～22日（日） 随意

- ・恒例劇団前進座初春公演「芝浜の革財布」「明治おばけ暦」を観劇しました。芝浜はおなじみですが、明治の新暦に改正となった暮のお話で興味深かったですよ。於 京都四条南座

☆2月15日（水） 2月期 三水会

- ・平成23年度会計監査を実施しました。
- ・総会及び今年度事業として、松江市の児童養護施設「双樹学院」への支援活動について協議しました。昨年、東日本大震災被災地への支援を行いました、これがきっかけとなり、島根県3か所のうちの松江市にある施設に支援金を決定しました。

☆3月10日（金）

- ・双樹学院へ学用品を送りました。新学期までにと考えていましたが皆様のお心遣い、ありがとうございました。何とか間に合いました。

☆3月21日（水） 3月期 三水会

- ・近畿島根県人会、京都島根県人会の有志を发起人とする「故郷応援団 古事記の旅」について協議しました。
- ・双樹学院への支援は継続事業とするとの決議をしました。
- ・今年度の総会は近畿島根県人会創立50周年記念大会当日に開催し、大会を県都松江市として大いに応援しようと決議しました。

☆4月11日（水）

- ・第39回近畿島根県市町村人会親睦ゴルフ大会に出場しました。今回は7名参加しましたが団体、個人ともに成績は・・・

☆4月18日（水） 4月期 三水会

- ・3月に決議した近畿島根県人会創立50周年記念大会で用いられる金券について、会員へ広くアピールするとともに1000円のところ、100円を会より援助し少しでも還元することを決議しました。

☆6月20日（水） 6月期 三水会

- ・総会会場の下見報告を行い、会場の仕切りを決定しました。

☆7月12日（金）

- ・荻田会長、有田幹事長、竹谷事務局長にて松江市関係機関、双樹学院を訪問しました。



故郷応援団「山陰古事記の旅」

感想文

・平成24年5月24日(木)～25日(金)

・京都と大阪から67名が2台でのバスツアー

＜24日＞京都発7:30・梅田発8:00～12:00 白兎海岸・白兎神社、(昼食)道の駅「神話の里白うさぎ」～15:40 黄泉比良坂～16:30 神魂神社～17:10 玉造温泉～曲水の庭～ホテル玉泉着(夕食懇親会)

＜25日＞ホテル発8:30～9:30 日御碕・日御碕神社～10:40 出雲大社～11:40 島根県立古代出雲歴史博物館～13:00(昼食)島根ワイナリー うなぎ釜飯御膳～14:00 出発～18:40 梅田着

日本最古の歴史書「古事記」編纂から1300年を迎えた今年、近畿島根県人会の主催で私たちの故郷であり、また、神話のふるさとである「島根」への里帰り旅行が企画され、近畿松江会からも多くの方々が参加されました。

また、玉造のホテルにはかつて島根県大阪事務所にご勤務であった県職員の皆様が前広野所長をはじめ多数お見えになり、我々を歓迎いただきました。駆けつけていただいた小林副知事を先頭に我々を一夜ご接待いただいたことは、心あたたまる有難い出来事で心より感謝申し上げます。

旅の一日目は、広瀬ご出身の奥田玲子さんの労作紙芝居によるバス内「古事記講座」に始まり、全員が一度に古事記通になり、白兎海岸に降り立つことができました。奥田さん、本当に有り難うございました。

二日目は雨の日御碕、出雲大社になりましたが、それもまた風情があり、出雲大社では大社さんのご好意により、60年ぶりの「平成の大遷宮」の仕上がり直前のお姿を拝見することができたのはこの旅のハイライトになりました。

旅の目的は、この節目の年に古事記ゆかりの地を巡り、古事記への理解を深めることによって、

私たちの故郷を再発見するということでしたが、以下に紹介する皆様のご感想を拝見すれば十分に達せられたようです。(順不同)

二日間の旅程をフルに準備、案内いただきました売豆紀所長をはじめ、県大阪事務所の皆さんには心から感謝を申し上げます。

■奥田玲子 (出雲国 広瀬町出身)
「オロチになった私」



友人・知人を「古事記ツアー」に誘った時、「えーっ、『古事記』なんか知らんわ」とか、「『古事記』？ そりゃ何じゃ」という人が殆どだった。そこで、つい「私がバスの中で分かる様に話すわよ」と言ってしまった。

ところが、『古事記』『日本書紀』『出雲国風土記』などを俄か勉強してのけぞった。とんでもなく難しいじゃないか。上巻だけでまともに話したら2・3時間はかかるだろう。それをバスの中で飲み、食い、うつらうつらしている人(失礼！)にも分かるように1時間で話すのは至難の技だ。安請け合いなどするんじゃないかと激しく後悔した。困った。とても困った。

そこで、話を省略しても「見て分かれ」と、紙芝居とペープサートを作ることにした。

100枚近く画用紙を買い込んで絵を描き、裏に最小限の説明を加えたものを25枚用意して、やっと『古事記』の荒筋が流れるようにするのに1ヶ月以上かかった。時間もかかったが、お金もかかった。それでも、これ以上省略したら『古事記』が分からなくなるといふギリギリの枚数だ。

5月24日は快晴だった。きっとオオクニヌシが私の努力を認めて下さったからだと自分に都合よく解釈して、話し始めた。説明は上品にしとやかに話し、会話部分は出雲弁で思いっきり臨場感を出そうとしたが、「あだーん、あんたやちゃ何しちゃうてて」

「そげしちよったらネ」等と訳の分からんことになってしまった。でも、たくさんの方々から「まー、おもっしえ話だったわ」とか、「よ一分かったでえ」などと言って頂いて、「あー、ほーんにえたしかったけど作ってよかった」と思った。

ホテル「玉泉」では、いろいろな方にお酒を勧められ、私が「ヤマタノオロチ」になってしまった。

■清水良子 (石橋町出身)
「山陰古事記の旅に参加して」

古事記は学生時代に日本最古の歴史書と習って以来あまり興味もなくきました。

今回、故郷島根のことを少しでも知ることができればと友人と参加を申し込みました。旅を終えた今、我が故郷島根に改めて誇りと愛着の思いを強くしています。

バスの中での古事記についての絵と出雲弁を交えての面白おかしいお話についつい引き込まれました。(お話下さった方、車中で大変お疲れだったと思います。ありがとうございました。)

そのお話のおかげで、その後の古事記ゆかりの土地や神社めぐりは、古代の人々の姿を想像しつつ見学することができました。

その中でも黄泉比良坂（よもつひらさか）は心に残っています。バス道から少し坂道を登った木立の中に大岩と石碑がありました。産後亡くなったイザナミにもう一度会いたいと夫イザナギが追いかけてくるも引き裂かれた、現世と冥界をつなぐ地です。夫婦の強い絆を思いその地に立った時、何か霊的なものを感じたのは私だけだったでしょうか。



ともあれこの二日間の旅は日常の騒々しさから離れ心癒された楽しい旅でした。お世話下さった皆様ほんとうにありがとうございます。

悠久の歴史と文化豊かな我が故郷はまだまだ知らないことが沢山あります。又の機会を楽しみにしています。

■荻田運三郎 (近畿松江会会長・雑賀町出身)
「山陰古事記の旅」バスツアーに参加して



「山陰古事記の旅（1泊2日）」バスツアーへ会員の皆様多数がご参加をいただきまして まことに有難うございました。

「古事記」編纂1300年の今年、神話のふるさと「山陰」への里帰りに相応しく、車中での奥田玲子女史による紙芝居神話の解説が余韻として在中、初めての白兔神社参拝と白兔海岸散策は、「古事記」の白兔神話の舞台がそっくり現代にタイムスリップしたかのような空間を残していた。

「古事記」で現世と冥界をつなぐとされた黄泉比良坂は、2つの大きな石が死者の国を塞いだ岩なのであろうか。あの下に死者の世界に通じる穴があるのだろうか。

黄泉の国から帰ったイザナギは、けがれを落とすためにある泉でみそぎをする。その時、その左目から生まれた神が天照大神、右目から生まれたのが月読命（つくよみのみこと）、鼻から生まれたのが須佐之男命。神話の世界で有名な「三貴子」である。

後に須佐之男命は出雲神話で大活躍する。黄泉比良坂は神話のルーツとも言える訳でしょう。そ

れゆえ黄泉の国を“根の国”とする説もあり、これが「島根」の地名の由来になったとも云われる。

日本最古の建築様式で大社造りとして国宝指定の神魂神社（イザナミ、イザナギ大神を祀る）は、いつ来ても心が鎮まる静かさが気に入る神域である。

宿の「ホテル玉泉」での懇親会は、美酒と珍味・飛び入りの芸で盛り上がり楽しいひとときであった。

2日目の稲佐の浜・日御碕・日御碕神社は、幼少のころ母親に連れられお参りした時、初めてトコロテンを味わい、ウミネコの喧しい鳴き声に怖ささえ覚えた記憶があります。

出雲大社に着き、社殿を仰ぎ見た瞬間、神苑木立にかかる白い紫煙の神々しさに胸打たれました。

昭和 28 年の御修造遷宮に母とご縁を授かったのに、再度来年、平成の大遷宮にお参りして子孫の幸せのために願いを神様にお祈りしたいと思っています。

古代出雲歴史博物館は何度訪れても常に初々しい感動を授けてくれる神秘的な世界といえましょう。

旅の終りを好みのワイン酒で締め括る粋なはからい、今回の旅行は、単なる物見遊山的なものでなく、節目の年に古事記への理解を深め、故郷を再発見できた有意義な旅に感謝しています。

■伊藤雅義

(宍道町出身)

「山陰古事記の旅」

★白兔神社

最初に訪れたのは因幡の白兔の舞台となった白兔神社。この神社は、創祀年代不詳、創建の由緒も不詳、そのうえ本殿の土台に菊の紋章を彫刻した「菊座石」が使われているものの皇室との関係は不明と、少なからずバールに包まれた社に思えた。

物語「因幡の白兔」や唱歌「大黒さま」は、確か小学校で学んだ記憶がある。

物語にある「おきのしま」は、島根県の「隠岐の島」と習ったが、白兔海岸の沖 150mの位置にある「淤岐の島」の説もあるそうで、どうやらこちらの方が有力のようだ。



祭神は当然大国主命と思いきや神話にゆかりの白兔神が祭られていた。そう言えば神社名は白兔神社である。

次の訪問地「黄泉比良坂」に向かう車中で、唱歌「大黒さま」を、同じ昭和一桁生れの小川龍朗さんとロズさんだ。二人とも小学生時代は優等生？。一番の歌詞は全部覚えていた。

おおきな ふくろを かたにかけ
だいこくさまがきかかると ここにいなばの
しろうさぎ かわをむかれて あかはだか

★黄泉比良坂

「黄泉の国」の入口、生と死の境とされるこの地には初めて訪れた。

この神秘的なスポットに立って、地元の方の説明を拝聴しながら、えも言われぬ心地になった。それにしても出雲は神話の宝庫であると思いつく思った。

★神魂神社

前回参拝したのは豪雨のさなか、今回は晴天。いつ参っても心が洗われる。苔むした屋根、風雨でくすんだ木肌、なんとも言えない。

今回は、早朝か夕方一人で参拝したいと思っている。

★神等去出（からさで）祭

日御碕神社に向かう途中、旧暦 10 月に全国の神々を迎え、そして見送る「稲佐の浜」を目の当たりにして、幼少の頃を思い出した。

出雲に神々が集まっている間は、我が家（旧来待村）の周辺でも、外出を慎んだり、大きな音を立てずに静かに暮らすといった「お忌みさん」の風習がかすかに残っていた。

特に、神々をお送りする「神等去出祭」の神事が執り行われる夜は、お帰りになる神様と出会ってぶっかけては失礼だとのことで、外出を控え、家に籠るように言われていた。

わが家でも当夜は早く床に就くもののなかなか寝付けない。尿意をもようしても不気味で便所にたてない。

当時田舎の殆どの家がそうであったようにわが家の便所も屋外にあった。そのうちどうにも我慢できなくなり父に告げると、父は「大声を出すと神様は気付いて通してくれる」と言って、裏口を

出るや否や大きな咳払いをしながら便所に連れて行ってくれた。遠い昔のことである。

■有田 嵩

(宍道町)

「因幡の白兔神話の地へ」

子供の頃の絵本に、だまされ

た兔を大黒主命が救う「因幡の白兔」の神話。日本人になじみ深いエピソードも多い神話のひとつである。

ツアーバスがハマナスの匂う美しい白砂の海岸に着くと、100mくらい沖に淤岐の島という小さな島が浮かんでいるのが見える。



資料によると 100 km 沖の隠岐との説もあるが、この隠岐でなく、淤岐の島の距離なら並んだワニ

(実際はサメのこと)の背の上を兔が渡る場面を想像しやすい。

白砂海岸、国道を渡った南側に白兔神社が鎮座する。



山すその野道を大国主命に救われ、教えられて池へと急ぎ走った小径があり、今は石造りの兔が置石してある。



さらに山を登ると兔が体を洗ったという池があり、これを「不増不減の池」という。池の水は黄色く濁っており、薬効は如何だろうか。さらに山を登った奥に広くゆったりした神社がある。



祭られているのは兔、即ち、白兔神社である。ご利益は皮膚病と縁結びの神様、神話舞台が急に身近になる。

ツアー会員が神官の説明にうなづく。参拝者は増えてくる。

白兔神話はとても具体的であり、兔の存在感が大きく、兔に導かれているような気持ちになる。兔は神様、大国主命と同じ存在であると感じる。

動物が魚の背を渡る物語は日本だけでなく、東南アジアの神話「動物の川渡り」は代表的、白兔神話は黒潮に乗って伝承されたという説もある。1300 年のむかしの興味深い話である。

ツアーバスは、国道を西へと JR 山陰本線をはるか南にしながら 1300 年前の因幡・白兔地域の人々の活き様を想い、また、草色野兔だったらともいろいろ思案しながら進む。

■下田弘子 (京都島根県人会)

「スサノオノミコさんのお導き」

この度、「古事記の旅」の旅
行で「スサノオノミコさん」の
導きが あった。



それはどんな事？ そんな
事あるの？ 最後には書きました
が私の二つの悩みをスサノオノミコさんが解決して
くださったのです。

この「古事記の旅」のお話があった時、一番の悩
みは京都で 34 人の参加者を大阪の梅田のバス乗り
場までどのように混乱なく、安全に案内するか困っ
ていたのですが、県大阪事務所のご配慮によって
大阪からわざわざ京都駅にバスを回してくださるこ
とを聞いて参加者全員がホッとしました。

それなら重たいビールやお酒を沢山バスに積み
込むことが出来る、旅は酒がないと寂しい、わいわ
いにぎやかにするには酒がないと話にならないと考
えて準備したが、よく皆さん飲みましたね。

私も人の事は言えない。もうしばらく缶ビールは見
たくないと思う程飲みました。

これが、一つ目の悩みの解決でした。

私は中学校までは島根の生活をして石見神楽は
事あるごとに見る機会が多かったのに、古事記に関
しては全く無知で無関心で、石見神楽にそんな伝説
があったのかと恥ずかしいのですが初めて知ったの
です。

「古事記の旅」のお話があったとき、昔の実話なの
か、作り話なのかわからん神話を知ってどうなるんだ、
それよりも堀川遊覧船に乗ってビールを片手にのん
びりした方が私は好きなんだがと乗り気ではなかつ
たが、事務局をしている関係で行かないわけにはと
思っしづしづ参加した。

最初にバスの中で紙芝居によって奥田さんからの
説明を受けてから知識を得て、実際その神社に訪
れて更に説明を受けると解りやすく理解できたこと
によって神話の世界に魅了されました。

そして県大阪事務所の松尾さんが神話について
わかりやすく説明して下さった事で更に奥深くなっ
て、神話は面白いと改めて感動したのです。食わず
嫌いは損をすると言いますが本当ですね。

京都から岐阜県人会の会長、愛媛県人会の副会
長さんが会員さんと一緒に沢山参加していただいた
ことは、「古事記の旅」を通じて和を広げる事に繋が
りました。

宴会場で、ある島根の方は島根県に他府県の方
を誘ったことは、それだけ京都島根県人会は信頼関
係が出来てパワーがあるとおっしゃった言葉は嬉し
かったです。また、岐阜県、愛媛県の方は思わぬと
ころで県人会のアピールが出来たと喜んでいらっし
ゃった。それだけ「古事記の旅」は大きな絆を得る事
が出来たと思います。

予期せぬ事とは、沢山の方との出会いと、参加者
の中で島根県人会の会員になりたいと申し出て下さ
って、さらに何か役立ちたいと役員のご希望をいた
だき、事務局としてこんなにうれしい事はない。一人
でも会員さんを増やしたい。役員さんが少ない事で
頭を痛めていた事務局にとって思わず「スサノオノ
ミコさん」と叫んだのです。

これで、二つ目の問題が解決した。

又、宿泊先ホテルの玉造温泉「玉泉」の食事も、
お風呂も大満足、二日間の昼食も大変美味しかつ
た。

数日後、参加者の方より「楽しかった、良かった」と
いうお礼の電話がありました。

この度の旅行は大成功と言えます。この企画をし
てくださいました和田会長、県大阪事務所の売豆紀
所長はじめ職員の皆様のご協力によって、事故なく
無事に終える事が出来ましたことを、京都島根県人
会事務局としてお礼を申し上げます。

有り難うございました。

■一軸保志郎 (松江市)

「“出雲”懐郷の旅」

今年二月、和田亮介、
守田宣昭両氏のご推奨
により島根県人 会並
びに近畿松江会に入会
した。



そして早速五月の「山陰古事記の旅」に参加を申
し込み、当日は一抹の不安を抱いて集合場所梅田
へ出掛けた。

そこで図らずも安井塾(大阪の歴史・地理を学ぶ

会)の塾生有田嵩氏に声を掛けられ、氏が島根県人と知り驚いた。正に奇遇で朝からの緊張が解けていくようだった。

今回の催しは他郷にある県人の“故郷応援団”と銘打った内容豊かな日程が組まれ楽しみにしていた。

扱、“ふるさと”といえど頭に浮かぶのが小学一年の時読んだ「山ノ上」なる一文である。当時の尋常小学國語読本巻二の冒頭には、

ムカフ ノ 山 ニ ノボッタ、
山 ノ ムカフ ハ、村 ダッタ。
タンボ ノ ツヅク 村 ダッタ。

ツヅク タンボ ノ ソノ サキ ハ、
ヒロイ、ヒロイ ウミ ダッタ。
青イ、青イ ウミ ダッタ。

小サイ シラホ ガ ニツ ミツ、
青イ ウミ ニ ウイテ キタ。
トホク ノ ハウ ニ ウイテ キタ。

この教材文を書いたのは当時文部省図書監修官であった井上赳である。井上は歴とした島根県人であり、富田莊広瀬に住んでいた五歳の時、祖父に連れられ月山に登った。そして山頂から能義平野の彼方に海を見た驚きと感動がこの詩文の伏線となっている。

亦、藤富康子は著書「サイタ サイタ サクラ ガ サイタ」の中で「小さな村の家々と田圃の続く果てにキラキラと陽に輝いている海と白帆を掲げた舟が見える」とその情景を綴っている。

井上はそこに「ふるさと」の原点を見たに違いない。

「・・・村 ダッタ。・・・村 ダッタ。・・・ウミ ダッタ。・・・ウミ ダッタ。・・・ウイテ キタ。・・・ウイテ キタ。」のリフレインが何とも云えぬリズムを感じさせる。

井上は前述のように有能な監修官として第4期「サクラ読本」(昭和8年～15年)の編纂に従事、数多の國語読本の教材を生み「サクラ読本」の父と謳われた。

さて、大阪を出たバスはやがて昼頃青い海の見える所に着いた。そこが白兔海岸だった。因幡の白兔

の故事にまつわる白兔神社に参拝。行程は一路山陰路を西へ辿り、やや日の陰る頃、黄泉比良坂へと達した。



薄暗い坂道を探り行くと、そこは死者しか行かない黄泉の國を思わせる凹地の空間(地底)が口を開けていた。そして吾々をイザナギ、イザナミの神話の世界に誘いこみ、ひととき現世を忘れさせるかの不可思議な妖氣すら漂わせていた。

次に向かった國宝神魂神社では古色蒼然たる大社造りの本殿を拝観、黄昏こめる神域一帯は神國出雲そのものを感じさせた。そして程なくバスは今宵の宿、玉造温泉ホテル玉泉の門をくぐった。

夜の宴席では県人一堂に会し、副知事以下県職員の皆様による心暖まる歓迎を受けたことが印象的だった。

守田氏とも席を同じうし、親しく杯を重ね歓談、そこへ慶友三田会副会長の奥田さんが来席、敬意を表すべく応援歌”若き血に”を斉唱するなど和氣藹藹楽しい宴の一夜だった。

翌日は平成の大遷宮を迎えた出雲大社参拝である。平素は昇段を許されぬ御本殿の内陣を拝観できたことは、まことに意義深く本旅行ならではのものだろう。

さて、小生と島根県との抑の縁は、松江の母衣尋常高等学校に学んだ3年間(昭和14～17年)にある。小学2年の秋小倉から転校した。今も毎年春開催の松江寮歌祭に参加、丁度桜花爛漫の城山から懐かしい街中を散策する。

南田町では嘗てのオンジョ釣りの獵場だった堀割も姿を消して世の移り変わりを感ずるが、未だ未だ松江には昔日の面影が色濃く残されている。梅雨が明け夏到来となれば、あちこちの堀割から今もトン

ボ釣りの口笛が聞こえてくるようだ。

コーイシ、コーイ

コノ オンジョ コーイ

アブラヤ ミタ オンジョ、

マケテ ニゲル オンジョ

ハジ ジャ ナイカヨ

往昔、堀割を駆けずり回った悪童連も既に七拾、八拾歳台に達した。將に往時茫茫たりと謂うべし。完
参考資料

・「サイタ サイタ サクラ ガ サイタ」朝文社 1990

藤富康子

・小学國語読本 卷二 文部省 昭和14年

■本持信夫

(京都在住)

「感謝」

山陰古事記の旅 実行委員長 小川龍朗様

先般の表記ツアーでのお世
話多謝！

その喜びと感動の二日間を、
日記風に綴りましたのでご笑
覧ください。

バス2台総勢70名の参加者
が、京都・大阪を出発し、県人
会事務 局の懇切丁寧なサービスを受けながら、
神話の里「出雲」へ向かいました。それにしても、二
日間詳しく説明してくれた事務局の松尾さんのプロ
ガイド顔負けの案内は、我々には何よりのプレゼント
でした！

白兎海岸、白兎神社、黄泉比良坂、国宝神魂神
社などを巡り、宿泊地玉造温泉の「ホテル玉泉」に
全員無事到着、夜の宴会でも地元の大歓迎を受け、
美味しい地酒に酔い、ステージでの「安来節」にす
っかりご機嫌でした！

翌日は稲佐の浜経由、日御碕神社に参拝後、今
回のメイン「出雲大社」に参詣、60年に一度の
大遷宮で工事中の本殿にて、特別にご祈祷を受け
ました。次の「古代出雲歴史博物館」では、遺跡から
発掘された国宝の刀剣・銅鐸などに魅せられ、特別
に玉串美人館長のご挨拶と解説をいただき最高で
した。

最後の「島根ワイナリー」での無料試飲の酔いが
まだ醒めないうちに時間となり、お見送りの関係者



の皆様方に感謝のお別れをして「故郷応援団・山陰
古事記の旅」を終えたのでした。

京都の7月～9月は、国立博物館で「大出雲展」、
祇園八坂神社で「石見神楽」、京都芸術劇場で「島
根の神楽公演」など、「神々の国しまね」一色となり、
楽しみで一杯です。



日御碕神社

※本持信夫様から今回の実行委員長であった私に
上記の感謝のお手紙をいただきました。このよう
に喜んでいただきましたことを心から嬉しく思い、
ご紹介させていただきました。

本持様はじめご参加されたすべての皆様に感謝
を申し上げます。有り難うございました。

小川龍朗（近畿松江会副会長・島根町出身）

古事記の旅は山陰中央新報（5月25日）に掲載
されました



寄稿集「松江だんだん」

会報のニックネーム「松江だんだん」にちなみ、「松江に“だんだん”する」ページをつくりました。

わが町・わが村・・を「語る」内容でも、「思い出」でも、「思い」でもすべて可とし、今年も下記の方々に、謂わば町内代表としてご寄稿をいただきました。

皆で語り継ぐ企画ですから、町内リレー大会のように、次号はあなたにバトンがいくかもしれません。その節はよろしくタノンマスケンネ。

■石橋町

「石橋町物語」

井上芳子

石橋町は、今は閑静な住宅街といった趣きですが、松江の城下町ができた早々のころは職人町として栄えたところです。

奥谷川にかかる長さ2メートル程の小さな橋が、石橋町の地名の由来。今はコンクリート造りですが江戸期は石造りでした。

石橋町は一丁目から四丁目まであり、私の育った一丁目は商店街として栄え、当時は呉服店、味噌漬物屋、魚屋、野菜果物屋、豆腐屋、文房具、洋服等々すべてのものがそろったものです。今では残った店は少なく寂しくなりました。神社や寺院も近くにあり、子供のころは、よく千手院で遊んだものです。

石橋町の主な名所を紹介します。

・「千手院」は、高野山真言宗の寺院です。築城にあたり本丸の鬼門にあたるこの地に鬼門封じの寺として建設されました。境内全域は緑地保全地区で、お城や城下町のまちなみを美しく眺められるところです。境内にある樹齢200年以上と言われる枝垂れ桜は松江市指定の天然記念物です。その時期になると、遠くの方からも人々が見学に訪れると聞いています。

・「森山醤油店」は創業明治8年の醤油店で



す。創業当時蔵の中で使われている約100本の木桶群の風景は、迫力があり歴史の深さを感じます。外観のベンガラ色に塗られたトタンが、不思議とまちなみに溶け込んでいます。

・「順光寺」は浄土真宗本願寺派の寺院です。熱心な真宗門徒であった松江藩家老神谷備後守が多額の私財を投じて改築しました。現在、若手僧侶を中心に、イベントやネットでの情報発信を行っています。

・「李白酒造（李白醸造元）」は創業明治15年の造り酒屋です。松江市出身の元首相若槻礼次郎氏がこちらのお酒が好きで、昭和3年に「李白」と命名しました。外観は昔の面影を残しつつ改修され、中庭、座敷等、当時の様子を伝えます。

食べ物といえば一番に「出雲そば きがる」が実家の近くにあり、子供のころからよく食べていましたが、今でも帰省のたびに「きがる」で蕎麦を一杯がいつものパターンです。

■北堀町

「北堀物語 ～変わらない風景～」 糸川孝一

プライベートな話で恐縮だが、先日、群馬銀行の大阪支店長から家族で島根に行きたいと相談があった。出雲大社、足立美術館、水木しげるロードという



希望であったが、せっかくなので松江城周辺の散策を追加するようお奨めした。私の家は松江城のすぐ近く北堀にある。北堀界限は今も城下の佇まいが残る風情ある町なので、ぜひ見て欲しいと思ったからである。

お奨めスポットは北堀橋から見る松江城である。北堀橋の真ん中に立つと、眼下には独特な緑色をした堀川の水面が広がる。そこから視線を上にとやると宇賀橋という古い橋が見え、その橋を右側に透かした向こうには、歴史を感じさせる堂々とした石垣とこんもりと茂る木々の緑が広がる。そしてその森の上に松江城の天守が見えてくるのである。ふと、視線を堀川の水面

に戻すと、そこには、木々の緑と天守そして石垣と宇賀橋が堀川の水面に一体となって映し出されている。この風景は、季節や天候によって様々な表情を見せ、とても風情があるのである。

松江城は千鳥城とも呼ばれる。その由来は、天守が、まるで千鳥が羽を広げたように美しいからという説があるが、城壁の大部分は黒い下見板でできているので一見すると黒さが目立ち無骨な印象を持つ。松江城天守の黒くどっしりとした姿は、無骨さと優雅さを兼ね備えていて、お城マニアの友人に言わせると「質実剛健、通好み、渋い城」なのである。

その松江城は、明治時代に取壊しの危機があったが、豪農の勝部本右衛門氏、元藩士の高木権八氏らの努力により保存された。その後も建物の傷みが激しく崩壊寸前の状態になったこともあったが、その時々先の先人の懸命な努力により今の姿に至っている。そういった先人の努力がなければ、此处からの眺めはまったく違った風景になっていたはずだ。

天気の良い休日に松江城山公園に足を運ぶと、若いお父さんお母さんに連れられて遊ぶ小さな子供たちの姿がある。私たち家族も子供が小さい頃はよく行って遊んだものだ。また、私自身も両親に連れられて行った記憶がある。いつの時代も「変わらない風景」である。

最近年齢のせい、昔と変わらないものを懐かしみ心地良いと思う気持ちが強くなってきたように思う。世の中にはいつまでも変わらないでいて欲しいものがある。そして、それは心の中にもある。変わらないでいられることは、実は、とても豊かなことなのかもしれない。「変わらない風景」をいつまでも大切にしたい。

さて、この「松江だんだん」の原稿を書くことによって、私自身、わが町である北堀界隈の素晴らしさを再認識することになった。そこで、近いうちに「お城を眺めながらゆっくりと北堀界隈を二人で歩いてみないか」と妻を誘うつもりである。

ただし、妻がどう言う反応を示すかは別問題である。

(現、山陰合同銀行大阪支店長)

■雑賀町

「わが町、雑賀町と雑賀小学校」 武田貞雄

私は、昭和 14 年に
松江市雑賀町に生まれ、
学校は雑賀幼稚園、雑
賀小学校、松江四中、
松江商業高校を卒業後、
昭和 33 年に大阪に就
職するまでの 18 年間
を過ごした。



18 年間過ごした雑賀町は、特に名所、旧跡があるわけでもなく、町の雰囲気はしっとりとした、今も 60 年前も余り変わらない静かな町並みの住宅街である。私らが子供の頃は遊び場とてなく道路でよく遊んだものだが、その道路も最近では少子化のせい、か遊んでいる子供の姿も見かけられない。

このような思い出の地「雑賀町」の地名の由来と発祥の経緯、それと私が通った松江最初の小学校「雑賀小学校」の紹介をしたいと思う。

私が育った雑賀町は、旧松江市の南端に位置し、町のすぐ南側の後背地には堀尾吉晴父子による松江城の城地選定の地となった床几山（約 41m）がある。

雑賀町は松江には珍しく東西南北に条理の道筋をもち、狭い道路が縦横に整然と走る碁盤の目のような町並みで、これは全国でも珍しい江戸時代の足軽（あしがる）屋敷の町割りの面影を残したものである。現在も昔と変わらず車一台がやっと通れる狭い道幅であり、今でも雑賀地区では碁盤目状の通りをもとに「何丁目の何丁目」と云う言い方で住所を表している。

「雑賀（さいか）」の名前の由来は、遠く戦国時代のロマンに彩られている。

松江に城を築いた堀尾吉晴が、松江入府の際、城を守る戦術面から紀州（和歌山県）の最精鋭の雑賀鉄砲部隊を配下に組み入れ、鉄砲足軽集団の居住地として造成したのが今の雑賀町の始まりである。

その後、堀尾氏から京極氏の時代を経て松平

直政が松江藩主となり、現在の町割りを完成させて雑賀町の町名が定着した。

「雑賀小学校の発祥」

雑賀は貧しいながら向学心の強い地域として、江戸末期から明治初期にかけては 20 を越す寺子屋、私塾が誕生するなど、漢字や算術、手習いが広く行われる教育に熱心な町であった。

中でも後世に貢献したのは沢野修輔であった。沢野は、足軽の出身ながら江戸に遊学した優れた儒学者であり、人格者でもあった。『人間本来の心を培い、自主独立、不屈の精神』を説き、幼い子供たちに一貫してこれを諭したのである。

教え子の中には、後に総理大臣を二度務めた若槻礼次郎や、近代スポーツの父・岸清一などがいるが、そうした環境のもと、明治6年にはこれらの寺子屋、私塾を今でもある雑賀町の洞光寺へまとめ、松江最初の小学校（現雑賀小学校）が開校した。

沢野は、雑賀小学校の初代校長として教育の陣頭指揮をとり、その精神は今でも雑賀小学校に「雑賀魂」として受け継がれている。「雑賀魂」とは学問に一生懸命打ち込み、それぞれの選んだ道でしっかりと身を立て、世の中の役に立つ人になれると云う教えであった。

現在の雑賀小学校の生徒数は、ここにも少子化の波が押しよせ、小生が入学した頃は全学年で約 1500 人と多くの生徒がいたが、平成 23 年の在校生は約 230 人と減少しており、その今昔の違いには感慨ひとしおなものがある。

■ 東本町

「ひがしほんまち？ トウホンチョウ？」

木村八重子

東本町は南に大橋川、北は京橋川にはさまれた地域で、今はトウホンチョウとも呼ばれ、川面に灯りを映す夜の飲食街になっています。

私の子供の頃は、旅館が並び、お米屋、八百屋、魚屋、お菓子屋、美容院、洋品店、夜明け前からお豆腐を作る音がし、良い香りが漂っていたお豆腐屋さん、こんにやく



やさんもありましたね。小さな商店がたくさんあって、のんびりした生活感あふれる庶民的な町でした。

大橋川で遊び、宍道湖に沈む夕日を眺めながら柳の木の下で「おままごと」をしたり、道路で石蹴り、ゴム飛び、友達の家も、皆、遊び場でした。



日が陰るまで、遊んでいました。もちろん、道路は石ころだらけで、柳も小さかったですね。

お盆前には、夏の風物詩、大橋川の川ぞいに花市が立ち、ホウズキやケイトウなど墓花、仏花が並び、その賑わいは子ども心にワクワクするほど楽しかったですね。



川舟でゴズを釣ったり、テナガエビを捕まえたり・・・

松江球場で試合があったのでしょうか。阪神タイガースや毎日オリオンズの選手が近くの旅館に宿をとることもあり、サインをもらいに旅館内を走り回ったことも楽しい思い出です。藤村選手のサインを友達に自慢したことも思い出します。



ダークダックスの皆さんの間に私(左から二人目)と姉
「松江の川は臭くないな〜!」とゲタさん。「川は臭いな
んて!」とびっくりした私。今は納得

環境を精一杯、楽しみながら育った東本町でした。

■本庄町

「風に漂う 浮き草に似て・・・」 坪倉司郎

松江駅のバスターミナルから美保関方面のバスに乗る。30分もすると車窓の右手から大根島を浮かべた穏やかな中海が広がってくる。天気が良いければ遠く大山までもが顔を出す。まるで絵から飛び出たような世界だ。そう、この風景こそが「我が懐かしの故郷・本庄」である。



この書き出しからご想像される通り、私の「故郷への想い」は少し度が過ぎているようにも思うし、その背景もほぼ自覚している。定年までの18回の転勤がその要因なのだ。平均2年毎の転勤はそれぞれの土地に馴染む間もない「浮き草」の日々を強いるものだった。これに比し本庄での生活は終戦の翌年に生を受けて以来、本庄小・中・北高・島大と23年間も続いていた訳だ。風に漂う 浮き草に似て 故郷に寄せる想いは 否応なしに強まっていったと感じている。

以下 その故郷志向の主な事例を何点か添え、「ふるさとを語る」の原稿依頼に副いたい。

① 一緒に本庄中学を卒業した仲間は95名。小学校から中学校までの9年間、他校との接触

はほとんどない。この純粹培養とも言うべき小集団の仲間には、同級生という以上の強い絆(故郷そのもの)を感じる。

今年の年賀状に同級生からのものが33枚を数えた。長年の年賀状交換が3人に1人の割合でこの齢まで続いていることに今更ながら驚いている。

② 社会人となり早々の親睦旅行が小豆島だった。寒霞溪の展望台から眼下に瀬戸内を眺め、思わず涙した。24の瞳の舞台となった半島と瀬戸内の景観が「故郷の枕木山から見た中海・大根島・弓浜半島」にダブったからだ。

あれは、片田舎の小さな世間しか知らない若者の初めてのホームシックだったのかもしれない。

③ 熊本から車で三時間の天草・牛深(ウシブカ)での出来事だ。漁業関係者の宴席で、出席者から「こんな遠方まで、だんだんだんだん」と言われ、「ここはどこ?」と耳を疑った。が、紛れもなくあの馴染みの「だんだん」だった。

同じ方言を共有する出雲と天草。「砂の器」ならぬ 正に「点と線」の縁に、その後の宴が一気に盛り上がったのは言うまでもない。

④ 東京駅から中央線で新宿駅に向かう車中「約10キロだ」と言われ、即座にイメージしたのが「本庄・松江間」の距離。高速で移動中「目的地まで後60キロ」の表示があれば、「そうか、中海一周か」となる。何年経ても「故郷の尺度」が出てくる。何とも不思議だ。

⑤ 各企業のオフィスや応接室で「恵比寿・大黒」の置物を見る度に、故郷の「神棚や床の間」のそれを思い出していた。「右大黒・左恵比寿」に関しては「上座・下座」等諸説あるようだが、事ある毎に自己流の仮説を披露してきた。

「船が最大の交通手段の時代は日本海貿易がメイン。恵比寿大黒の台座(扇状)は 航海中に陸地を眺めた時の島根半島の形を模したものではないか。となれば台座(半島)の左(東)に恵比寿(美保関)・右(西)に大黒(大社)は極自然の配置だ」と。この強引なまでの仮説は環日本海貿易都市の企業人には結構受けた。「ワシ等が表日本」の気概は日本海沿岸どこも同じか。

⑥ 今年も「松江市ふるさと寄付制度」の時期となった。ここ数年「中海の自然環境の保全」を祈り、少額ではあるが協力している。

生家が中海産の魚介類を商っていたから、中海が豊かな海であったことは良く覚えている。

「あの中海を再び」の想いは年々熱くなる・・・。

■美保関町

「複式授業」—小学校時代—

梅木 隆志

私の出身地は、島根半島の東部の美保関町である。その美保関町の西はずれの万原という小さな村落で家の前は中海、後ろは山という自然豊かなところでした。



夏は中海で一日中泳ぎ、秋は栗・柿・アケビ取り、冬は雪のなかでソリ遊びと、まさに自然とともに育ちました。

また、中海では、アオデ（ワタリガニ）・うなぎ・エノハ・カレイ・スズキ・エビ・メバル・赤貝などいろいろ獲れ、海産物の宝庫でした。

そこで昭和21年に生まれ、昭和28年が小学校入学。当時は今のように車社会ではなく、移動は、専ら中海沿岸の村落と松江を結ぶ合同汽船という船の利用が主流であり、小学校は今のようバス通学もなく徒歩での通学であった。

そんな状況のなか、小学校の本校である森山小学校までは、6キロの距離があり、下宇部尾と万原地区の学童は、森山と万原の間である下宇部尾にある森山小学校下宇部尾分校へ通学していた。

分校は、学童の数が少ないので複式授業で同級生は18名であったと記憶している。

それぞれの家が皆近く、人数も少ないので、今でも会えば兄弟（姉妹）のような付き合いです。皆さんは複式授業を経験されていないでしょう。

複式授業では、1・2年生、3・4年生、5・6年生の2学年が同じクラスで学びます。

したがって、全校で3クラスしかないので。

授業は、基本的にはクラスの半分は自習です。たとえば、1年生が算数を教わっている時、2年生は自習するのです。音楽・社会など一部の教科は一緒に学ぶのです。

自習時間はあるけれど、人数が少ないので一人ひとりへの指導は行き届いていて、最近よく言われる落ちこぼれはいなかったように思う。

当時、美保関町には分校を含め5校の小学校があった。

現在は、美保関町も少子化、過疎化で学童数も少なくなり、分校も廃止され、小学校も統合され、私が育った万原に1校のみとなっている。

昨年訪れた小豆島で壺井栄の小説「二十四の瞳」に出てくる分教場を見学したのですが、私が通った分校とまさしく同じようであり、懐かしさを覚えました。

■八束町

「我 故郷 大根島」

岩田 太

近畿松江会の事務局より寄稿せよと拝命頂き、何を書こうかと悩みましたが、生まれ育った大根島について書いてみたいと思います。



昭和25年産声を上げ、戦後五年経っても当時の大根島の食糧事情は、麦、粟、薩摩芋が中心でした。芋は石見から出雲に伝わり大根島にも芋が出来るように成ったようです。

おやつは芋を蒸した物とか、夏豆。離島の寒村であり、そんな中、尊敬する両親に一生懸命育てて頂いたように思います。

その当時は養蚕も盛んで、学校帰りに桑の実を口を紫にして食べながら帰ったものです。

又、当時、朝鮮人参（幕府に隠して島で人参を栽培し松平藩十八万石の有力な財源の一つでした。又、江戸で親の病気を治すために娘を売って求めた高貴薬の人参が大根島産であったようです）の生産も大きな収入源であったようです。

大根島の皆さんは朝早くから夜遅くまで働き、洗濯機が無かった当時、大根島では岩の間から

海に流れる水のある所を川と呼び、母達はモンペを穿き、始めの洗いは足踏みで、濯ぎは流れに任せて洗っていたように思います。

又、島根の県花である牡丹（大根島の牡丹の歴史は三百年以上も昔にさかのぼり、波入の善隆寺の僧が静岡から持ち帰られたのが始まりのようです）も島中で生産され、今でも世界各国に輸出されています。

今では、離島であった大根島が、中止になったが中海干拓事業に伴い、東は江島大橋によって境港市に繋がり、西は堤防道路によって松江市に接するようになりました。従って島は国道九号線のバイパス化し、至便の地になっていますが、小学校（八束村立八束小学校）のときは、親父と兄貴とポンポン船のやくも丸に乗って松江の天神祭に行くのが何よりも楽しみでした。その頃の松江は大会のように思えたものです。

毎年、瓢箪棚を作り瓢箪を眺めながら

“瓢箪を眺めて偲ぶ（想う）母の顔”

二頭身の瓢箪を見ながら、八頭身？の亡き母を想い瞑想にふけています。

我が家の庭には島石がならび、春には島の牡丹が咲き、冬には積雪の様子を大塚山のライブカメラで見えています。又、毎朝のテレビの天気予報に必ずぼつりと映る我故郷 大根島を見るたびに、思い出に耽る毎日を過ごしています。大根島で生まれ育ったお蔭で“克己復礼”な生き方が出来るように思います。

松江開府 400 年祭、この大佳節の時、松江市の一層の発展と近畿松江会、松江市民の皆様の更なる活躍を祈念しながら稿を脱したいと思います。皆様、まめで頑張らっしゃい！

■東茶町

「末次公園」

パン！パン！パン！楽しみにしていた花火大会が始まった。そう今日は水郷祭の日だ。

私の実家は東茶町にあり、屋根に登れば宍道湖が一望できる。

井原和彦



水郷祭の日には屋根に“ござ”を敷いて、家族全員が横に並んで寝転びながら花火を見ていたのを覚えている。祖母が作ってくれたおにぎりや両親が買ってきてくれたかき氷やりんご飴を食べながら…

水郷祭の日には2日間で数万人が集まる末次公園も普段はのんびりとした空気が流れる自然豊かな公園である。遊具や芝生の広場もあり、小さな子どもたちが走り回っている。私自身休みの日の多くの時間を末次公園で過ごした。ボールが見えなくなるまでキャッチボールやサッカーをしたり、夜ごはんの準備が出来たと母親が迎えに来るまで蒸気機関車の周りで鬼ごっこをしていた。

数ある思い出の中で特に印象に残っていることは父親と弟と3人で野球をした際、小学生高学年の私が渾身の力を込めたボールを父親が市役所まで打ち返した時、父親のことを「すごい！」と思ったことである。私も将来自分の子供が出来た時に末次公園で一緒に広場を走り回れることを今から楽しみにしている。

さて、今回の寄稿は最近ゆっくりと話をすることのなかった祖父母と松江や東茶町の歴史について話をする良い機会となった。今回を機にこれからも松江に帰った際には、抹茶と和菓子を頂きながら祖父母とゆっくり松江について話をしたいと思う。

■北堀町

「我が故郷松江」

伊藤征治（奈良市）

昭和十三年、呱呱の声をあげて同三十二年までの十八年余を松江市北堀町で過ごしました。



城山と堀川に囲まれた松江城（千鳥城）、その堀川に沿った松並木・武家屋敷・ハーン旧居の並ぶ塩見縄手は家から三〜四百米、腕白大将の頃お世話になった北堀小学校（入学時は国民学校）、双本松で有名な通称赤山の松江一中（旧松中跡）、松江商業高校は何れも自宅から五〜六百

米の位置に有りました。

小学校時代は、勉強は学校で済ますものと身勝手な考えで、家で復習、予習、宿題などは殆どした記憶はありません。ただ自己弁護が許されれば野球、バスケットボール、体操では担任外の先生方の憶えは良く、当時から今で言う体育系であったようです。

後になって思ったことですが、低学年の頃は未だ戦後間もない時期(戦後数年)でおおらかと云うよりは先生も含め、国民皆がその日を生きる事に必死な時期だったのでは無いのでしょうか。

先生方は女学校卒業早々か、かなり年季の入った先生か何れにしても女性先生が多く、五・六年生時に漸く、所謂復員されたバリバリの男の先生方による授業になってきた様に記憶しております。小学校時代の放課後は、校庭・城山入口の大手前広場・城山に取り込まれた護国神社の境内が野球場代わりの日暮れまでの遊び場所でした。

松江市は県庁所在地らしく、県庁の他に赤十字病院、公会堂、旧制高等学校、師範学校、放送局、日銀、勧銀等一通りの施設が有り、小さいながらも流石に比較的纏った町ではありましたが、昭和二十年代は未だ田舎町と云った風景も持ち合わせ、ミミズ・ふかしたさつま芋を四角に切ったものを餌にして堀川で釣ったフナ、鯉、時にはうなぎ等は食卓では貴重な御数の一品でした。

魚介類と言えば、夫々季節になれば日頃手近かに食していた宍道湖、中海の幸シラウオ・アマサギ・しじみ・赤貝・そして堀川で釣った鯉・うなぎ等が今や「宍道湖七品」として、いささか貴重品扱いされている事は一つの時代の流れなのでしょうか。

一段毎の高さは低いが幅の広い城門独特の石段、或いはなだらかな坂道等を有していた城山全体が幼少時代、その後の高校部活のトレーニングの格好の場所であり、親から受けた大切な身体髪膚を更に頑健に鍛えて呉れた場所でもありました。

松江城と云えば、千七百年代から今日まで連

綿と継承されております大名茶人として名高い松平治郷(不昧公)が興したお茶と共に、山川・若草等の銘菓が思い出され、何時までも忘れ難いまさに甘く懐かしい故郷の味です。

社会人になってからの生活拠点は大阪、西宮、奈良と変わりましたが、職場は大阪市内でしたので高校同期・先輩・後輩との交わりは従来から継続的に続いておりますが、平成十六年からご縁があつて近畿島根県人会・その後結成されました近畿松江会に参加させて頂く様になりました。

さまざまな業界で奮闘してこられた、出身の小・中・高校が異なる同郷の諸先輩、同年代の方々との懇親を深める機会が増え、肩肘張らずにお付き合いをさせて頂けるのも「同郷の誼」と言う、大変優しく有難い言葉のお蔭と思っております。

松江を後にしてから早や半世紀以上が過ぎ、高度成長期の昭和四十年代から平成にかけて年々歳歳、我が故郷も大きく整備、変貌して来ました。

一時期、帰省はマイカーで専ら中国道・米子自動車道・山陰道経由で右側に大橋川を眺めながら、今は八重垣神社の近くにある実家に帰省しておりましたが、境水道大橋が完成してからは米子自動車道から弓ヶ浜・景色の素晴らしい同大橋・国道四三一号で中海を左に眺め、故郷の昔を少しでも多く肌に感じ、思い出を愉しみつつのドライブが帰省ルートになっております。

「故郷は遠きにありて・・・」と言います。我が故郷松江は、前述しました諸々の風物が市民の日常生活と諸々の面で巧く調和して今日まで継承されております。

数年前、「松江観光大使」の名刺をお預かり致しました。今後共趣味の会等、機会がある度に名刺を手交、可能な限り「故郷松江」のPRに努めて行きたいと思っております。

在阪の同郷の皆様、愛する故郷の皆様、今後共ご指導、ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

■東奥谷町

「我が町『東奥谷』」

宮廻光則



私は東奥谷の出身であり、高校までの18年間、両親とともに暮らしていた。子供の頃、家の前には、今はなくなった田んぼがひろがり、また6月には、蛍が乱舞していた。兄弟や従兄弟、近所の同級生たちと田んぼで野球をしたり、タニシをとってザリガニ釣りを楽しんだ。

小学校低学年の頃だったであろうか。「東奥谷は八束郡法吉村」という地名で、松江市ではなかったということを近所のご老人から聞いたときには、子供心にショックを受けた。今回、本誌に寄稿する機会を頂き、改めて調べた。法吉村は昭和23年に松江市に編入されたようである。

恥ずかしい話ではあるが、私は「東奥谷」の由来を未だに知らない。昨年、たまたま明治時代の地図を拝見する機会があった。それを見る限り、家が軒を連ねているのは石橋町までであり、東奥谷界限は、山もしくはその間を這うように家と田んぼがあるだけの寂しい集落のようであった。東の奥谷とは、まさにそのような環境が由来であろうか。

東奥谷がある法吉地区、城北地区界限には歴史的な建物が多い。地区の行事では、尼子氏が建立した白鹿山（しらがやま）城や尼子攻めに毛利が居城した真山（しんやま）によく登ったものだ。春には千手院（石橋町）のしだれ桜を家族・親戚みなで花見。昔の思い出はつきない。

余談ではあるが、親戚の家に代々伝わる話では、毛利軍が尼子氏の白鹿山城を攻め入る際、親戚の祖先が毛利軍の馬引き役として仕えたとの言い伝えがある。なんでも、その功績として辺りの土地を拝領したとか。真偽は定かではないが、歴史ロマンを感じる。

高校卒業後、大学時代は東京、就職後も勤務地が東京や松江だったりと、これまで引っ越しを繰り返していたが、昨年とうとう東奥谷の実

家の隣に家を建てることができた。地鎮祭には氏神様である春日神社の神主さんに来てもらった。小学校以来、20数年ぶりに町内の運動会に参加したりした。東奥谷にもアパートやマンションが建ち、町内にも見慣れぬ人が増えた。近隣にはソフトビジネスパークがあり、春日町から古曾志方面に抜けるトンネルが開通し、東奥谷を東西に横切る「城北通り」は車の交通量が増えた。

ただ、今でも変わらぬ近所づきあいが東奥谷にはある。地区の人が地区の人を助けあう姿勢、老若男女大いに盛り上がる運動会、誰に言われるでもなく地区の道路や駐車場を掃除する老人、私はこの町が好きだ。

今年の7月、私は転勤で大阪に移り住んだ。家族とも離れ、単身暮らしだ。初めて暮らす大阪だが、多くの近畿在住の方々と知り合いたいと願っている。

寄稿集「松江だんだん」は3回目の企画ですが会員の皆様のふるさとの思い出やふるさとへの思いなどを語っていただくコーナーです。

寄稿の時期は特に定めていませんので随時、事務局へお寄せ下さい。お寄せいただく際、データでいただきますと喜びます。

また、原稿にまつわる写真や当時の新聞、雑誌の記事などありましたらと一緒にお寄せください。

もちろん、あなたの写真を添えて！！！！

【報告】“松江城を国宝に！”運動で、創建時の棟札（祈祷札）を発見

事務局長 竹谷 奨（八束町） 平成24年7月12日 松江市で取材

松江市では現在、国の重要文化財に指定されている「松江城を国宝に」運動を行なっていますが、近畿松江会も昨年のふるさと訪問バスツアー参加者の胸にピンバッジをつけるなど応援をしています。

松江市では国宝にとアピールするためには創建時の棟札（祈祷札）が大いに役立つとして賞金をかけてさがしていましたがこの度、松江城内の松江神社より発見されました。

一時はあきらめかけていたとのことですが、松江歴史館の開館を機に松江市内の各所へ歴史的文化遺産の収集整理を呼び掛けていたところ沢山の札の内2枚が松江城に関わるものだったとのこと。

札－1 （梵字）奉讀如意珠經長栄処

〔どくじゆしたてまつる によいしきょう ちょうえいするところを つつしんでもうす きんげん〕

札－2 （梵字）奉轉讀大般若經六百部武運長久処

〔てんどくしたてまつる だいはんにゃきょうろっぴやくぶを ぶうんちょうきゅうのところ いのりたてまつる〕

札－1

札－2



【事業報告】

児童養護施設 双樹学院（松江市）を訪ねて（2012年7月12日）

報告者 幹事長 有田 嵩（宍道町）

近畿松江会の菊田会長、竹谷事務局長、有田は、松江市役所、観光協会、商工会議所への表敬挨拶および松江市関係各課と今後の近畿松江会の行事打合せ等を終え、市中心部から南東の古志原街道を進む。

松江工高正門を過ぎ、まもなくして上口バス停付近の住宅地の中に2階建の双樹学院を見出した。

早速、来意を告げる。しばらくして理事長が現われ挨拶があった。

菊田会長から寄付の申出を行い、寄付金をお渡しする。理事長から再度の寄付行為と、お礼の挨拶があり、そして会員の皆様によりしくお伝え下さいとのことであった。後日、礼状が事務局宛に届いた。



双樹学院は、昭和20年終戦後、原爆孤児、戦災孤児の養護育成を目的として設立された。

現在、両親のいない児童、虐待を受けている児童等、45名を受入れている。最近は警察関係からの連絡があり、預かることもあるとのことであった。年令は2才から18才までの児童・生徒で、さまざまな環境と生活体験の差、発達段階の差異のある子ども達を受入れ、養育しているとのことである。

訪問した時間帯は、子ども達がまだ学校から帰っていないのか静かであった。

10分ばかりの玄関での立ち話、応対であったが、45人の子ども達が家族的雰囲気の中で安心感のある生活ができるよう、“幸せ”を祈念し、近畿松江会は今後も絶やすことなく支援を続けようと決意しながら退出した。

人通りの少ない街道、清楚な住宅地の一画、さわやかな風が吹いていた。

報告 8月末現在 皆様からお寄せいただいた支援金は43名 114,000円です。

当支援は近畿松江会の永年事業として継続いたしますので今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。

会 員 名 簿 (中・小学校区別) [1/4]

平成24年8月現在

- ①より”ふるさと”に密着した「会員名簿」を編集したいと考え、松江市教育委員会から現在の
中・小学校区(通学区域)の資料をいただき、皆様からご申告いただいている「出身町」を
あてはめてこの名簿を作成しました。
- ②学校の統合、新設、学区の変更なども、いただいた資料の限りで表現しました。
- ③不具合、間違いがあります場合は、お許しいただきますとともに、事務局までご一報
いただければ幸いです。
- ⇒(注)島根大学付属小(中)学校は、市内全域が対象ですのでこの表には記載していません。
皆様からいただいた「出身町」のところに掲載させていただきましたので、ご了承ください。

校区／出身町	通学区域・町名／会員氏名
【一中校区】	
生馬小	(上佐陀町一部、下佐陀町、西生馬町、東生馬町、薦津町、浜佐田町一部)
内中原小	(殿町一部、西茶町、東茶町、芋町、中原町、片原町、外中原町、内中原町、末次町、堂形町、砂子町、国屋町、黒田町一部、浜佐田町一部、千鳥町、南平台)
城北小	(北堀町、奥谷町、東奥谷町、石橋町、大輪町、湊北台、法吉町一部、春日町一部、黒田町一部、菅田町一部)
法吉小	(比津町、比津が丘、法吉町一部、西法吉町、春日町一部、黒田町一部)
<石橋町>	井上 芳子(高槻市) 片岡 扶美子(芦屋市) 清水 良子(茨木市)
<内中原町>	田村 稔久(豊中市) 永井 ひろし(京都市)
<奥谷町>	千葉 新一(池田市)
<春日町>	杉原 伸治(松江市)
<片原町>	足立 猛(神戸市)
<北堀町>	土田 和男(大阪市)
	伊藤 征治(奈良市) 平山 武秀(箕面市) 山口 茂(京都市)
	糸川 孝一(大阪市)
<黒田町>	森脇 美紗子(豊中市)
<湊北台>	山田 敬子(吹田市)
<外中原町>	池田 康郎(宝塚市) 四方田 司(明石市)
<殿町>	飯塚 満男(茨木市) 三島 薫(生駒市)
<中原町>	佐々木 悦子(吹田市) 佐藤 栄治(西宮市) 宍道 弘志(吹田市)
<西法吉町>	
<東生馬町>	青戸 哲哉(松江市) 青戸 俊夫(神戸市) 藤原 敬(松江市)
<法吉町>	由木 文彦(東京都)
【二中校区】	
朝酌小	(西尾町、朝酌町、福富町、大井町、大海崎町)
川津小	(菅田町一部、西川津町一部、上東川津町、下東川津町)
母衣小	(末次本町、東本町、殿町一部、母衣町、北田町、南田町、米子町、向島町、西川津町一部、学園南、学園)
持田小	(福原町、坂本町、川原町、東持田町、西持田町、上本庄町一部)
<上東川津町>	井上 隆吉(高槻市)
<末次本町>	山田 稔(富田林市) 三成 宏二(木津川市)
<西尾町>	篠木 豊(大阪市)
<西持田町>	鶴羽 孝子(尼崎市)
<東本町>	木村 八重子(八尾市) 永江 幹雄(神戸市) 一軸保志郎(堺市)
<母衣町>	川角 十四枝(高槻市)
<南田町>	松井 恵(京都市) 山崎 晃(西宮市)

会 員 名 簿 (中・小学校区別) [2/4]

校区／出身町	通学区域・町名／会員氏名
【三中校区】	
雑賀小	(栄町、新町、松尾町、雑賀町、堅町、本郷町、西津田一部、上乃木一部)
中央小	(天神町、白潟本町、灘町、魚町、八軒屋町、和多見町、寺町、横浜町、幸町、袖師町、嫁島町、伊勢宮町、御手船場町、大正町、新雑賀町、東朝日町、朝日町、津田町、西津田一部、西川津町一部)
○平成7年4月1日 白潟小学校 + 朝日小学校 ⇒ 中央小学校	
<朝日町> <伊勢宮町> <雑賀町> <白潟本町> <新町> <新雑賀町> <大正町> <堅町> <天神町> <灘町> <東朝日町> <本郷町> <横浜町>	竹谷 曜子(大阪市) 宮内 玲子(大阪市) 足羽 俊子(西宮市) 奥村 伸子(豊中市) 小原 弘幸(枚方市) 荻田 運三郎(明石市) 木村 恵吉(吹田市) 篠崎 一浩(神戸市) 澄川 光成(河内長野市) 武田 和子(宝塚市) 福岡 則博(宝塚市) 江角 要一(大阪市) 武田 貞雄(堺市) 吉田 郁子(豊中市) 中村 博行(名張市) 鳥谷 芳男(高槻市) 永井 彰(大津市) 仁宮 龍聖(高石市) 赤井 真一郎(大阪市) 望月 修一(豊中市) 篠田 恵美子(京都市) 茂居理智子(堺市) 竹内喜次男(高槻市) 佐藤早智子(茨木市) 熊野 禮助(箕面市) 長谷川 忠雄(奈良県北葛城郡) 菊池 尅雄(神戸市) 山根 一朗(神戸市) 荻田 京子(松江市) 岡本 由美(伊丹市)
【四中校区】	
古志原小	(古志原一部、八雲台、上乃木一部、一の谷町)
津田小	(東津田町、古志原一部、西津田一部)
【湖南中校区】 ○昭和50年4月1日 新設	
忌部小	(西忌部町、東忌部町、玉湯町一部)
乃木小	(上乃木 一部、浜乃木町、浜乃木、乃白町、乃木福富町、田和山町、西嫁島)
<上乃木> <古志原町> <西津田> <浜乃木>	神谷 紀男(堺市) 掃部 恵子(枚方市) 諏訪 秀富(茨木市) 諏訪 宏(大阪市) 田中 英明(交野市) 森廣 洋子(芦屋市) 坂本 隆男(大津市) 曾田 良子(奈良市) 三代 知範(神戸市) 達山 暢(松江市) 内部 茂(茨木市) 荻田 莞爾(松江市) 村上 裕司(西宮市) 京嶋喜久子(松江市)
【湖東中校区】 ○平成5年4月1日 新設	
大庭小	(大庭町、山代町、古志原一部、佐草町、大草町、矢田町一部)
竹矢小	(矢田町一部、青葉台、竹矢町、馬潟町、八幡町、富士見町)
<大庭町> <山代町> <八幡町>	押田 良樹(吹田市) 大野 徹(奈良市)

会 員 名 簿 (中・小学校区別) [3/4]

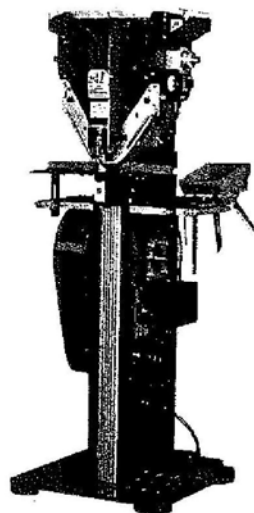
校区／出身町	通学区域・町名／会員氏名
【鹿島中校区】 鹿島東小 鹿島町(御津、上講武、南講武、北講武、名分一部) 惠曇小 鹿島町(惠曇、手結、片匂、佐陀本郷一部、武代一部、古浦一部) 佐太小 鹿島町(佐陀宮内一部、佐陀本郷一部、武代一部、古浦一部、名分一部)	
<鹿島町>	宇藤 二男丸(和泉市) 坂井 茂子(亀岡市) 山本 雅昭(大阪市)
【湖北中校区】 ○平成6年4月1日 古江中学校 + 秋鹿中学校 + 大野中学校 ⇒ 湖北中学校 秋鹿小 (秋鹿町、岡本町、大垣町) ○平成22年4月1日 中島小学校 + 秋鹿小学校 ⇒ 秋鹿小学校 大野小 (大野町、上大野町、魚瀬町) 長江小 (東長江町、西長江町) 古江小 (古曾志町、西谷町、古志町、莊成町、西浜佐陀町、上佐陀町一部) ○(予定)平成23年4月1日 長江小学校 + 古江小学校 ⇒ 古江小学校	
<秋鹿町>	竹田 洋一(西宮市)
【島根中校区】 ○平成16年4月1日 島根中学校 + 野波中学校 ⇒ 島根中学校 島根小 (島根町) ○平成17年4月1日 大芦小学校+加賀小学校+野波小学校 ⇒ 島根小学校	
<島根町>	小川 龍朗(京都市) 小川 勉(柏原市) 客野 伸(神戸市) 藤城 坦(神戸市)
【宍道中校区】 大谷小 宍道町(上来待和名佐地区) 来待小 宍道町(東来待、西来待、上来待) 宍道小 宍道町(宍道、伊志見、白石、佐々布、昭和)	
<宍道町>	有田 嵩(寝屋川市) 池尻 和子(東大阪市) 伊藤 雅義(京都市) 太田 厚(加古川市) 太田 幸廣(神戸市) 小田 兼久(豊中市) 川島 俊雄(川西市) 木原 貢(豊中市) 小高 久始(堺市) 木幡 泰三(寝屋川市) 木幡 晃正(篠山市) 皐月 禧暉(宝塚市) 高木 征次(交野市) 武田 精(八尾市) 田中 晨子(枚方市) 土江 安雄(堺市) 永原 忠巳(茨木市) 光田 仁一(奈良市) 渡部 勇(宝塚市) 渡部 恵美子(宝塚市) 和田 亮介(豊中市) 古川 高志(名張市) 飛田藤夫(大阪市)
【玉湯中校区】 大谷小 玉湯町(大谷一部) 玉湯小 玉湯町(布志名、湯町、林、玉造一部、大谷一部)	
<玉湯町>	黒崎 忍(西宮市) 長谷川 紀美子(奈良県北葛城郡) 岡本 幾三(伊丹市)

会 員 名 簿 (中・小学校区別) [3/4]

校区／出身町	通学区・町名／会員氏名
【本庄中校区】 本庄小 (手角町、長海町、野原町、枕木町、邑生町、新庄町、上字部尾町、本庄町、上本庄町一部)	
<邑生町> <上字部尾町> <上本庄町> <新庄町> <手角町> <本庄町> <枕木町>	松本 稔(川崎市) 内田 美二(伊丹市) 松本 育郎(堺市) 松本 耕司(枚方市) 松本明夫(伊丹市) 寺前 澄子(高槻市) 北林 栄(堺市) 面白 紘(橿原市) 坪倉 司郎(川西市) 山内 和美(吹田市) 三代 雅樹(加古川市) 田部拓生(奈良市) 木島 光子(大津市)
【美保関中校区】 ○平成7年4月1日 美保関北中学校 + 美保関南中学校 ⇒ 美保関中学校 美保関小 (美保関町) ○平成13年4月1日 美保関小学校+森山小学校+福浦小学校⇒美保関東小学校 ○平成13年4月1日 七類小学校+片江小学校⇒美保関北小学校 ○平成18年4月1日 美保関東小学校+千酌小学校+美保関北小学校⇒美保関小学校	
<美保関町>	愛田 幾也(神戸市) 梅木 隆志(大阪市) 景山 麻利子(藤井寺市) 花本 博(城陽市)
【八雲中校区】 八雲小 (八雲町)	
<八雲町>	石倉 文行(豊中市) 藤田 宏(堺市) 藪田 とし江(大阪市)
【八束学園校区】 ○平成23年1月1日 小中一貫教育校として発足 八束学園 (八束町)	
<八束町>	岩田 太(神戸市) 門脇 基(茨木市) 門脇 幸夫(大阪市) 川原 ひろ子(豊中市) 河野 宗子(草津市) 名誉会員:白木 みのる(芦屋市) 高瀬 保子(豊能町) 高橋 小梅(東大阪市) 竹谷 奨(大阪市) 坪山 孝美(宝塚市) 福屋 篤子(豊中市) 松本 悟(大東市)
【東出雲中校区】 ○平成23年8月1日 八束郡から松江市に合併 出雲郷小 (出雲郷地区) 揖屋小 (揖屋地区) 意東小 (意東地区)	
<東出雲町>	小松 哲夫(京都市) 桑原 隆(大阪市)
■【松江市外出身の会員】	
<安来市>荒銀 昌治(西宮市) 千葉 潮(吹田市) <出雲市>杉谷 百合子(京都市) 竹内 一郎(大阪市) 鳥屋尾 勇(大阪市) 布野裕二(尼崎市) 金山 富美(松江市) <温泉津町>林 邦幸(京都市) <浜田市>北島 幸子(豊中市) <津和野町>青木 順次(守山市) <京都市>小川 ますみ(京都市) <大阪市>名誉会員:三林 京子(大阪市) <明石市>小松 雅子(明石市) 藤原 浩子(三木市) <姫路市>山本 達郎(姫路市) <呉市>菊田 チェミ(明石市) <萩市>守田 宣昭(松原市)	

自動ホック打機 TM—200V

累積生産台数 8,000 台を誇る
伝統を持つ代表機種 TM—200 をベースに
プラスチックホック専用機種として、世界に
先駆けて開発



プラスチックホック

ベビーウェア及び各種アパレル製品に最適な
軽くてソフトな肌触りのプラスチックホック



プラスチックホック・精密機械製造販売

精密金型 設計・製作

武 田 精 機 株 式 会 社

TAKEDA SEIKI CO., LTD

代表取締役 武田 精

本 社

〒581-0041

大阪府八尾市北木の本
1丁目12番地

TEL : 072 (923) 5181

FAX : 072 (923) 5186

大阪営業所

〒541-0056

大阪府中央区久太郎町
1丁目8-11

TEL : 06 (4705) 7500

FAX : 06 (4705) 7433

三重工場

〒518-1155

三重県伊賀市治田
字大沢3090-23

TEL : 0595 (20) 9051

FAX : 0595 (20) 9052



株式会社 **はーとケアグループ**

代表取締役 **下田 弘子**
(京都島根県人会 副会長兼事務局長)



〒607-8162 京都市山科区柳辻草海道町12-7 タケナカビル5階
TEL: 075-583-2611 FAX: 075-592-1022



株式会社川商
リバティーいちご

LIBERTY

管理者 **若松 ひろ子**

〒542-0081

大阪市中央区南船場3丁目1-7

日宝東心斎橋ビル6階1号

TEL: 06-6281-3722

FAX: 06-6281-3723

ユニフォームはレンタルの時代へ!!

HAN・HIN

阪神ユニフォーム販売 有限会社



弊社はピンクリボン運動を
応援しています

本 社 〒540-0021 大阪市中央区大手通2-3-17

TEL06-6943-6990 FAX06-6943-6980

E-mail: hanshin@hanshin-uniform.jp

<http://www.hanshin-uniform.jp/>



～あなたの勇気がいのちを救う～
(心肺蘇生法とAEDの活用の普及)

NPO法人 大阪ライフサポート協会

事務局 **松本 耕司**

Koji Matsumoto

〒533-0033

大阪市東淀川区東中島1-17-5 ス튜디오新大阪416

TEL: 06-6370-5883 FAX: 06-6370-5884

E-Mail: matsumoto@osakalifesupport.jp

URL: <http://osakalifesupport.jp/>

大阪府AEDマップ <http://osakaaed.jp/>

TAトータルプランニング

お墓の移転から建立・墓理法に関する
こと等なんでもご相談に応じます

代表 **竹谷 奨**

〒543-0014 大阪市天王寺区玉造元町2-34

TEL 090-3054-9159 FAX 06-6764-7731

Email: osktake@ff.iij4u.or.jp

空調機器・熱交換器専門製作
顧問 **木村工機株式会社**
代表 **木村 八重子**
大阪府大阪市中央区上町A番三三三号
TEL06-6773-1940
FAX06-6773-1941

〒581-0015
八尾市柳井一丁目

木村 八重子

近畿松江会
副会長

松江観光大使

「水の都」
松江



松江商工会議所

会頭 古瀬 誠
副会頭 大谷 厚
副会頭 田江 彦
副会頭 有澤 寛

TEL 0852-21-1614
松江市母衣町五五十四

堀尾吉晴公の銅像建設にご協力をお願いいたします。

堀尾吉晴公銅像建設委員会

お問い合わせ先事務局 社団法人松江観光協会
〒690-0874 松江市中原町19
TEL 0852-27-5843
FAX 0852-26-6869

関乃五本松節保存会

会長 鷗 鷲 修 一
審査部長 三角 邦 男
〒690-1311 松江市美保関町七類3246-1
メテオプラザ内
TEL 0852-72-3939
FAX 0852-72-3888

山陰合同銀行 大阪支店

支店長 糸 川 孝 一

〒534-0024 大阪市北区中之島二丁目三番三三号
(大阪三井物産ビル一三階)
TEL (06) 6201-0300
FAX (06) 6201-0306

松江の雅味
山川・朝夕・路芝
菓子老舗

風流堂

TEL 0852-21-2344 風流堂 検索

佐和田登記測量事務所(松江市) 顧問
結婚相談(連絡は封書でお願いします。)

佐和田 丸

〒573-1182

大阪府枚方市御殿山町11-22-610

電話・Fax 072-848-7417

メール malul22@nifty.com

婚活 本人昭和40年生男性 阪大薬卒薬剤師
土地家屋調査士



株式会社 エルム 不動産

代表取締役 **木村 恵吉**

Keikichi Kimura
宅地建物取引主任 大阪第091986号

〒532-0003
大阪市淀川区宮原2丁目12番14-207号室
TEL 06-4807-7676 FAX 06-4807-7677
携帯:080-3108-3330

篠崎倉庫株式会社

代表取締役会長 **篠崎 治**

〒650-0023 神戸市中央区栄町通4-1-11
TEL 078-341-6721 FAX 078-361-3647

その他事業所 神戸市中央区弁天町（シーガルハーバービル）
神戸市中央区栄町通（エタニティ栄町ビル）
神戸市兵庫区築地町
神戸市灘区灘浜町（シー・スクエア摩耶）
大阪市豊中市向丘（豊中ビル）



haes
happens a cozy evening space
【Open】8:00pm~
Tel.(075)551-5811

原 ますみ
090-1146-6683

★ 前進座初春特別公演 ★

舞踊 **雪祭五人三番叟**

山本周五郎/原作 **赤ひげ**

2013年1月3日～17日 **南座**

遣島使・妻倉和子も出演します！

前進座京都営業所TEL075(561)6300

大阪市天王寺区玉造元町三―二
電話 〇六―六七六八―九七六七
代表取締役 鳥屋尾 勇
(出雲市出身)

活句 **大橋** だいます

島根県人の溜り場

近畿松江会ではHPにも広告を
募集予定です
事務局までご連絡ください

近畿松江会

相談役 **伊藤 雅 義**

〒607-8076

京都市山科区音羽役出町11-16

TEL 075-592-3221

FAX 075-592-3221

近畿松江会

常任幹事 **井上 隆吉**

常任幹事 **井上 芳子**

〒569-1147

高槻市土室町23-4

TEL・FAX 072-696-7334

近畿松江会

顧問 和田 亮介

〒561-0883

豊中市曽根西町4丁目10-6-310

TEL 06-6852-3365 FAX 06-6852-3387

近畿松江会

会長 荻田 運三郎

〒674-0074

明石市魚住町清水2249-5

TEL・FAX 078-943-1500

近畿松江会

幹事長 有田 嵩

〒572-0042

寝屋川市東大利町23-4

TEL・FAX 072-826-0151

📁 事務局から “お知らせ” 📁

平素は近畿松江会にご加入・ご協力いただきありがとうございます。

今年度はご案内いたしておりますように、総会を近畿島根県人会創立50周年記念大会にあわせ開催することいたしました。

11月18日(日)は近畿松江会総会に出席いただき、総会后そのまま会場へご案内申し上げますので、先にお申込みいただき、お手許にお届けいたしました「金券」をお忘れなく、お持ちいただきますようお願い申し上げます。金券は空クジなし、豪華賞品が当たるようです。

さて、近畿松江会は井上常任幹事(ゴルフ担当)のご尽力で「**近畿松江会親睦ゴルフ大会**」を去る9月28日(金)に太平洋クラブ六甲コースにて開催いたしました。来年度の開催は未定ですが会員の皆様の参加を募ります。参加希望の方はご連絡ください。

電話・FAX 072-696-7334 (井上)

.....

※ 近畿松江会加入者をご紹介下さい

松江南高校・旧家政高校

松江農林・松江高専・・・出身の方

.....

< 編集後記 >

ロンドンオリンピックに熱狂し、甲子園の高校野球の佳境を横目で見ながら、また「地球温暖化」などというヤワな言葉はマヤカシではないかと思うほどの酷暑の中で、この会報第5号の編集に取り組みました。皆様のご協力のお陰で漸く最終のメドがたち、ホッとしながらこの最後の原稿を書いています。

今年前半のハイライトは、「古事記 1300 年」記念の故郷応援企画、「山陰古事記の旅(バスツアー)」でしたが、多くの会員の皆様のご参

加をいただいて楽しく、意義深く終了しました。その模様は皆様から感想文をいただいて特集を組みましたので、ぜひご一読をいただければと思います。

後半のハイライトとして、11月18日には近畿島根県人会創立50周年記念事業「神々の国しまねフェア～物産と観光展～」の開催が準備されています。この企画を全面応援するために、近畿松江会では同日同会場で本年度総会をおこなう予定をしていますが、多くの皆様に足を運んでいただいて、またお互いに元気なお姿を確認し合いたいと思います。(本文でもご紹介)

また、会員の皆さんにリレーで各町内のことを語っていただく「寄稿集」松江だんだん「」のページを今年も続けることができ、本当に嬉しく思っています。ご協力いただきました皆様に厚く感謝を申し上げます。この会報「松江だんだん」が、ふるさと松江に「だんだん」を言いながら、その「輪」が近畿の地で広がっていくことを心から願う次第です。

最後になりましたが、会報発刊にご協力いただきましたすべての皆様、そして、いつものことながら、最後のまとめ役を引き受けていただいた竹谷事務局長に、「だんだん・だんだん」と重ねて御礼を申し上げ、編集後記とさせていただきます。

担当 常任幹事・広報 松本耕司(上本庄町)

近畿松江会 会報 第5号

■発行:平成24年9月

■発行者:近畿松江会事務局

〒543-0014 大阪市天王寺区玉造元町 2-34

竹谷設計事務所内

TEL:06-6221-5740 FAX:06-6221-5741

E-mail: osktake@ff.ij4u.or.jp

■印刷・製本:株式会社 大一洋紙

〒537-0012 大阪市東成区大今里 1-1-25

TEL:06-6978-2577 FAX:06-6978-2588